

# 竹取新聞

発行所  
株式会社 カグヤ

第173版

理念と実践で  
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

カグヤグループも  
毎日元気に配信中！

カグヤウェブサイト



www.caguya.co.jp

「聴福庵」の情報はFacebookで  
f 神家総本家 聴福庵

## 全国大会in長崎

来年2月に長崎県で行われるギビングツリー主催、「第3回全国実践研究大会」について、実行委員である平戸市のみのりこども園副園長の西村先生と、長崎市の形上保育園主任の田崎先生にお話を伺いました。

「藤森先生は選択をする際に、選択をする基準や判断材料を提示することが大事だとお話をされます。これはある意味、私の藤森メソッドの実践発表でもあるのですが、見学候補園の色々な情報を提示して、ぜひ参加者が自分に合う見学園を選んでもらいたいと思ったんです。」というところで、今回は全ての見学先へ西村先生がお伺いし、園見学動画を作成していらっしやいました。

各園が保育の中で大切にしていることを一つひとつ解説している動画は、研修用動画としても十分に活用できる素晴らしいクオリティーになっています。

また、園見学に行った際の楽しみとなるように、動画内では注目ポイントにはモザイクをかけて説明しています。そんな工夫も遊び心たっぷりで、見ていて楽しい、見学に行つて楽しい動画となりました。

一つの動画でも見どころたっぷりですが、これがなんと見学候補9園全てに作られていることにびっくりです。コンテンツ力がたつぷりの今回の取り組み。制作の際に大切にポイントを伺うと「とにかく見学者目線を忘れないことを意識しました。モザイクをかけた部分は、まさに自分の園で真似がしたいと思つた部分です。だから、動画編集も楽しくやれました。」とお話しくださいました。

始まる前から魅力と勢いに溢れた長崎大会。皆さんも「楽しい」が詰まった園見学動画を是非ご覧になってください！

（眞田海）



公式ページで各園のボタン(↑)をクリック→「YOUTU.BE」をクリックすると動画が閲覧できます！

## 新サービスのご案内

採用と園児募集に効果的なプラットフォームづくりの新サービス「えんぶらす」を立ち上げました。ホームページ制作に携わらせていただく中で、園長先生等から「職員の人数が足りず、求人サイトや紹介会社を通すと採用に費用が掛かりすぎてしまつ」「園のホームページ(以下、HP)を通じて、保護者・求職者からの問い合わせが少なく、どうしたらいいでしょうか？」など、ご相談をいただくことが近年増えてきました。

そこで、これまで1000園以上のHP制作で培ってきたノウハウを活かし、今すぐにある園のHPやSNSなどのウェブツールの導線を見直し、整え、ウェブプラットフォームの立ち上げから運用までをサポートするサービスを開始することになりました。

サービスの「えんぶらす」の「えん」は、園・円・縁の複数の意味を表し、「ぶらす」には、園がより輝くように「えんぶらす」と命名しました。商品ロゴの目元はカグヤの社名に由来する月をモチーフに

し、子どもの好奇心を表したデザインとしています。プラットフォームづくりを通して、園と保護者、園と求職者、園と養成校、園と園同士などの繋がりを創出し、縁によって結ばれることを目的としたサービスです。

今の時代にあった学生や求職者に合わせた情報発信でのお困りごとはありませんか？えんぶらすは、採用や園児募集についての新たな取り組みのご提案です。ご興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。ズームでの説明も行っております。また、サービス内容の詳細につきましては、同封のフライヤーを是非ご覧ください。（奥山卓矢）

職員採用と園児募集に効果的な  
ウェブプラットフォームづくり



えんぶらすは、「今の時代にあった情報発信」を行うための「3つのウェブプラットフォーム」の立ち上げから運用までをサポートするサービスです。

えんぶらすの専用ページを開設しました！

## 声なしの環境設定、その後

先月の竹取新聞では、第57回保育環境セミナーにて実践発表して下さった園での取り組みを参考に、私たちセミナー運営側も声なしの案内環境を整えていることを紹介させていただきました。声なしの案内とは、一人ひとりに声を掛けなくても参加者が主体的に行動できるような、目で見て分かる案内のことです。先月に引き続き今回は準備した環境でどのような効果があったかの実践報告をさせていただきます。

今回は着席可能な座席の案内、スツケース置き場の案内、お弁当ごみを捨てる場所、給やパンフレットなどご自由に取っていただくものの案内について、掲示内容の変更を行いました。

例えばスツケース置き場では、今までは受付時に「スツケース置き場はあちらです」と声掛けをしていましたが、受付の行列対応などで案内が漏れてしまうことがありました。今回は受付に並んでいる時から置き場の案内が目に入るよう、受付者の背

後に紙で掲示をしたところ、前回のセミナーでは2つほどしか置かれていなかったスツケースが、今回は10〜15ほど置かれていました。前回までは案内が漏れてしまった方は置き場に気付かず、仕方なく座席の足元に置かれていたのかもしれない。お一人ずつ声を掛けることが温かみのある丁寧な案内と思込んでいたのですが、そうとは限りませんでした。

参加者の立場になった案内や、主体性を引き出す案内とどのようなものか、自分たちの価値観をアップデートする機会となりました。今後改善を重ねてより良い仕事をしていきたいと思えます。（眞田由莉）



会場が案内掲示だらけにならないよう気を付けながら、誰が見ても分かりやすい案内を心がけます。

カグヤでは、それぞれが別々の場所においても、お互いの気持ちや様子をクルー同士はもちろん、皆様とも共有できるよう、毎日、ホームページでブログ配信しています。ここではその一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

## 冬至の風習

今年も早いものでもう12月。12月と聞くと、クリスマスや大晦日を思い浮かべる方が多いかもしれませんが、その前に季節の節目である「冬至」がやってきますね。

冬至は1年で最も昼の時間が短い日、翌日から少しづつ日が延びていきます。そのように陰が極まって再び陽が増えていく考えから、冬至は別名「一陽来復（いちようらいふく）の日」とも呼ばれ、昔から「この日を境に運氣が上昇する」とも言われています。

冬至に、厄除けの食材であるかぼちゃや小豆を使って料理したり、ゆず湯に入って身体を温めたりと、古くからある風習を大切に過ごしている方も多いかと思いますが、その中のひとつ「運盛り」というものがあることをご存知でしょうか。

冬至には「ん」のつくものを食べると「運」を引き寄せると言われ、人参（にんじん）、大根（だいこん）など「ん」のつくものを「運盛り」



2023年の冬至は12月22日。「冬至から曇の目ほど日が延びる」ともいわれるように、この日を境に少しづつ昼が長くなっていきます。

といい、縁起をかついでいたそうです。特に「冬至の七種（とうじのななくさ）」とも呼ばれる「南瓜（なんきん）、蓮根（れんこん）、人参（にんじん）、銀杏（ぎんなん）、金柑（きんかん）、寒天（かんでん）、饅頭（うんどう）」は、食材名に「ん」が2回つくため、「ん」運が2倍呼び込めるとか！ また、それだけでなく運盛り食材は、免疫力の強化や風邪の予防など寒い冬を乗り越えるのにぴったりですから、先人の知恵には本当に頭が下がります。

知れば知るほど奥深い「冬至」。昔からの伝統的な風習を楽しみながら、子どもたちにも伝承していけたらと思います。（宮前奈々子）



【冬至の室礼（しつらい）】  
今年の冬至は「運盛り」をテーマに室礼を行いました。唐辛子は「南蛮（なんばん）」とも呼ばれているため、ちょうど畑で収穫できた南蛮も南瓜、人参、銀杏などと一緒に！ また、干支では「ねずみ」が最初に来るので、1年が終わり新たな年を迎えることを十二支のねずみにかけて、庭の「ねずみ瓜」も。ねずみ瓜は蔓ものでもあるため「繋がり」を意味したり、種の形が打ち出の小槌に似ていることから縁起がいいともされています！

## 一期一会庵

### 七代先への思いやり

今年も千葉のむかしの田んぼと福岡の場で新嘗感謝祭を行いました。この年中行事も会社みんなを取り組みはじめて10年以上になります。

この新嘗感謝祭は毎年、田植えから草刈り、そして収穫した新米を感謝して田んぼでむかしながらに火を熾して新米を炊いてそれをみんなと一緒に食卓を囲み団欒する行事です。

日頃から汗水流して共に働く仲間たちと一緒に育てたお米で同じ釜の飯を食べることの仕合せは本当に格別なものです。食糧危機のことが巷ではよく聞こえてきますが現在、地球の人口はすでに80億人を超えているといえます。これだけの人口がいるというの、それだけ地球に食べ物

がありその資源を使ってきたということも意味しています。これからまだまだ増えていく人口のなかで、あとどれくらい残りの資源が地球に存在するのか。少しずつ確実に資源が失われていくなかで、残りの資源の奪い合いが熾烈になっていくのも予想できます。むかしのことを調べる

と、今のような大量生産の仕組みや資源を使い切るような環境がなかった時代は自然環境の変化にあわせて

時には飢饉が起きてたくさんの人が亡くなっていました。そこから、お米を含む食料の大切さや日頃から備えることへの重要性を学び、人々も助け合いや思いやりなどの相互扶助の精神も育てていきました。人間はあまりにも膨大な資源が目前にあれば自然のことなど考えなくなりま

す。いくらでもある資源、あるだけ使い切る資源というのはか決して豊かなことではなくかえって貧しい心を育てていくように思います。

私たちが無肥料無農薬でむかしのお米づくりを今でも実践するのは、この当たり前の自然の感覚を失わな

いたためでもあります。先人たちはもしも自然との共生をやめて環境を崩せば、それが七代先の子孫まで迷惑をかけてしまうといつて自分の代を

気を付けていたといえます。子どもたちの未来の希望を創造していく私たちの社業に、このお米づくりは大切な感覚を磨き伝承してくれています。あまりたくさんはありませんが

お取引のあるお客様の園イベントや記念日、あるいは何か大切な行事の時にこの私たちのむかしのお米を使っていただけですと幸甚です。

ぜひ、ご興味があればお気軽にお問合せください。これからもカグヤは引き続き、子孫の永続のために大切な伝統や生き方を伝承していきたく

と思います。（野見山広明）

## 編集後記



ゆず湯で邪気払い。香りも楽しみたいと思います！

クリスマスや大晦日、そして正月を控え、子どもたちにとって、日常と異なる体験が出来るのもこの時期ならではの事。冬至の日には、園の給食やご自宅で「運盛り」食材を用いた食事を摂り、元

来年は、今年以上に子どもたちの笑顔溢れる一年になったら切に願っております。今年の新取新聞の発行は本号が最後になります。いつもご覧いただきましてありがとうございます。来年もよろしくお願いたします。（奥山卓矢）

カグヤは「子ども第一義」の理念を实践し、お客様の発展と自立に貢献していきます



ライトハウス(灯台)  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17  
東京堂神保町第3ビルディング8階  
tel.050-1744-8823  
fax.03-3518-6218

カグヤウェブセンター  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17  
東京堂神保町第3ビルディング8階  
tel.03-3518-6217  
fax.03-3518-6218

働き方と暮らし方の一致  
暮らしフルネスについて

